富士地方の恙虫(1949, Nov. —1951, March)

恙 虫 種 類	採集数	アカネズミ	ハタネズミ	ホンシ ウヒミズ モグラ	採 集 地 と 時 期
1. <i>Trombicula fuji</i>	646	25(20.5)	3(44.3)	5 (0)	池(3月), 須走(4月), 奥湯ヶ原, 玉穂 御殿場, 山中(11月)
2. <i>Tr. pallida</i>	369	15(10.6)	2(105.)	2 (0)	池(3月), 玉穂, 御殿場, 山中(11月)
3. <i>Tr. kitasatoi</i>	508	6(27.0)	3(115.3)	1 (0)	池(3月), 奥湯ヶ原(11月)
4. <i>Tr. miyajimai</i>	9	6(0.2)	3(2.7)	1 (0)	池(3月), 奥湯ヶ原(11月)
5. <i>Tr. mitamurai</i>	29	16(0.4)	2(0.5)	7(3.1)	池(3月), 須走(4月), 山中(11月), 熱 海(12月)
6. <i>Tr. tamiyai</i>	1	3 (0)	2(0.5)	—	池(3月)
7. <i>Tr. palpalis</i>	165	29(2.4)	17(6.2)	4 (0)	鳴沢(11月), 山中(4, 11月), 甲府(11月)
8. <i>Tr. intermedia</i>	83	32(0.1)	11(1.9)	7(8.6)	山中(4, 8月)
9. <i>Tr. nagayoi</i>	316	12(20.6)	—	7(9.9)	山中(8月), 須走(8月)
10. <i>Tr. japonica</i>	59	13(4.1)	7(0.6)	3(0.7)	鳴沢, 奥湯ヶ原, 山中, 御殿場, 甲府(11月)
11. <i>Tr. scutellaris</i>	2	—	6(0.3)	—	鳴沢(11月)
12. <i>Tr. tenjin</i>	12	3 (0)	1 (0)	1 (12)	奥湯ヶ原(11月)
13. <i>Tr. himizu</i>	3	6 (0)	—	2(1.5)	山中(11月)
14. <i>Euschöngastia ikaoensis</i>	3	8(0.4)	—	2 (0)	山中, 甲府(11月)
15. <i>Gahrlepiea</i> sp.	59	49(1.1)	13(0.4)	9(0.1)	池(3月), 山中(4, 8, 11月), 玉穂, 御殿 場, 甲府(11月)
総 数	2264	60	20	15	

関東地方の恙虫に就いて

Fukuzumi, S., Obata, Y. and Onishi, T.:
Trombiculid mites from Kanto district.

福住 定吉 小畑 義男 大西 敏夫

恙虫病患者の発生が、何故に西北日本の新潟、山形、秋田等の三縣にのみ限局して居るかと言う疑問を抱いて居つた。1948年富士山麓に本病が発生して病原体も証明された。同時に桑田氏等に依つて媒介者の調査が行われ、多数の *Trombicula* が発見された其の後私等及び佐々氏等の調査が行われて居る。1949年11月に及んで横浜市鶴見区に発生した不明疾患の一例から、*Rickettsia* を分離し日本細菌学会に報告した所であるが、同定試験の結果 *Rickettsia-tsutsugamushi* で有る事を決定し、昨年の夏以後此患者の発生した地区より *Trombicula* と一例の *Apodemus speciosus*, から病原体を証明した。本年の2月には埼玉縣と群馬縣との境界部神流川流域渡瀬村に於て、同じく不明疾患の一例から、血清を得、Weil-Felix 氏反應を試みた結果恙虫病と診断したので、媒介者の調査を行つた所多数の恙虫を発見した。此の様

に、関東及び東海地方にも恙虫病が散発し、且つ多数の *Trombicula* (以下 *T.* と略す) も棲息して居るが、果して西北日本の三縣と同様に、*T. akamushi* が媒介者で有つたか否か関東地方を中心として調査を試みた結果次の様な成績を得た。静岡縣富士山麓の須走滝ヶ原間の裾野では昨年の本学会に於て報告した如く、*T. pallida*, *fuji*, *scutellaris*, *japonica* 及び *Gahrlepiea* sp. 等二属五種、同縣伊東温泉では *T. fuji*, *kitasatoi* の二種。神奈川縣では、箱根温泉、*T. pallida*, *fuji*, *kitasatoi*, *miyajimai*, *japonica*, *Gahrlepiea* sp. *Ascoschöngastia* sp. 等三属七種、松田町附近では、*T. pallida*, *fuji*, *kitasatoi*, *miyajimai*, *mitamurai*, *Gahrlepiea* sp. 等二属六種、山北町附近、*T. pallida*, *fuji*, *kitasatoi*, *miyajimai*, *himizu*, *japonica*, *Gahrlepiea* sp., *Ascoschöngastia* sp., 等三属八種、箱根山麓石垣山には、*T. pallida*, *fuji*, *kitasatoi*, *Gahrlepiea* sp. 等二属四種、川崎市日吉台、*T. pallida*, *fuji*, *japonica*, *Gahrlepiea* sp., 等二属四種、横浜市鶴見区、*T. pallida*, *fuji*, *kitasatoi*, *japonica*, *Gahrlepiea* sp., 等二属五種三浦半島の葉山他数カ所では、*T. fuji*, *kitasatoi*, *japonica*, *Gahrlepiea* sp., 等二属四種であつた。埼玉縣では、大宮市大和田、*T. pallida*, *fuji*, *palpalis*, *japonica*, *Gahrlepiea* sp., 等二属五種、同縣渡瀬村、*T.*

pallida, *fuji*, *kitasatoi*, *intermedia*, *miyajimai*, *Gahrlepie* sp., *Ascoschöngastia* sp., 等三属七種, 同縣秩父郡倉尾村, *T. pallida*, *fuji*, *intermedia*, *Gahrlepie* sp., 等二属四種. 群馬縣鬼石町淨法寺, *T. pallida*, *fuji*, *Gahrlepie* sp., 等二属三種. 東京都大島岡田村, *T. pallida*, *fuji*, *kitasatoi*, *scutellaris*, *Gahrlepie* sp., 等二属五種. 岩手縣沢郡水沢町で, 秋田縣雄物川と対照をなす, 北上川流域では *T. intermedia*, *palpalis* の二種のみで有った.

結 論

以上の如く, 私等が関東地区及び其他で調査した期間は 6 月から翌年の 3 月に迄及んだが夏季に捕獲した哺乳動物から未だ恙虫を発見して居ない. その他 9 月以降 3 月迄の間に上記の如く, 主として山岳地形の雑木林や雑草地帯, 又は竹藪の中等で捕獲した *Apodemus speciosus*, *Apodemus geisha*, *Microtus montebelli* 等の鼠或は *Urotrichus talpoides hondonis* (ヒミズモグラ) 等から極めて多数の恙虫を発見し得た. 従つて恙虫の分布範囲は意外に広く且つ多数の種類, 殊に異なつた地方を調査する度毎に, 恙虫の新種が発見されて現在約 22 種類に及んで居る事は極めて注目すべき事である. 然し乍ら此多数種が, 気候や地質地形に係るものか否かは現在直ちに結論し得ないけれ共, 西北日本の三縣と異つて, *T. akamushi* が未だ発見されないと云う点は疫学上甚重要である. 而して関東地方に於て恙虫病を媒介する種類は, 私共の実験成績からして病原体を保有し, 且人体を襲う習性を持つ *T. pallida* で有ると考えて居る. 尙本研究には文部省科学研究費が当てられた. 深く感謝の意を表明する次第である. [北里研究所]

日本産恙虫の種類と分布について

Sasa, M.: Studies on the fauna of Tsutsugamushi (Trombiculid mites) of Japan.

佐々木

新潟地方の恙虫有毒地における恙虫の生態 特に棲息密度測定法について

Kumada, N.: Ecological studies on the Trombiculid mites of the Tsutsugamushi disease endemic foci of Niigata area, with special regards on the method of the population estimate.

熊田 信夫

1950 年夏季に新潟地方の恙虫病有毒地に於て行われた恙虫病の総合研究に際して, 有毒地の薬剤処理による安全化の作業を担当し, 野鼠に附着する恙虫幼虫の観察と, 棲息密度の測定法として日光誘引装置 (Field Light-trap) の実用化の研究を行つた.

1) 有毒地野鼠の捕獲率及び野鼠による恙虫の消長の観察

7 月 1 日より 11 月 30 日に至る 5 カ月の間に, 阿賀川沿岸有毒地に於て, 延べ 345 ケのバチンコ式捕鼠器及び 109 ケの流線型捕鼠籠を用い, ハタネズミ (*Microtus montebelli*) 76 頭, アカネズミ (*Apodemus speciosus*) 1 頭を捕えた. 捕鼠率は夫々約 16% 及び 19% であつて, 野鼠の棲息密度が高い事が推察される. 恙虫の消長については概略の観察に止つたが, *Trombicula akamushi* は始めより優勢で 10 月中旬まで観察され, *Tr. pallida* は 8 月中旬に至つて出現し, *Tr. palpalis* は 7 月 1 日以降 11 月迄は見られなかつた. 他の *Trombicula* 属は観察されなかつた. 此の期間の恙虫の採集総数は 3624 疋で *akamushi* がその 96% を占めていた.

2) 日光誘引装置及びその観察成績

イギリスの K. L. Cockings の装置 (Bull. Ent. Res. 1948) を簡便化したもので, 恙虫幼虫の趨光性, 登攀性 etc. を利用した装置である. 薬剤撒布の効果判定に資する爲 7 月中旬に試作し, 11 月末迄に延べ 211 回を 50 区劃の土地について行い, 恙虫幼虫 315 疋, ハダニ, コウチュウダニ等の成虫, 幼虫計 4567 疋を採集した.

本装置は未吸着幼虫の直接採集, 他の地表及び土中のダニの採集等が可能であり, 且この装置の面積 (1 平方メートル) 内の発生数を比較的正確に観察出来る. 然し急傾斜の土地や, 直射日光が強烈過ぎる場所では使用が制限されるので, 今後改良に努力し度いと思ふ. 本装置の